

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年6月4日

## 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「園外でいいもの（自然）を見つけよう」

<テーマ設定理由>

日ごろから身近な自然物に興味を持ち、散歩に出かけると草花を摘んだり、気づいたことを伝えようとする姿が見られている。自分達で育てたり、お世話をしたり、直接かかわる経験を持つことで、さらに興味を広げていけるようにテーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

6/4(水)～9(月)にかけてグループごとに「いいもの(自然物)」を見つけに園外に散歩に出かける。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ビニール袋
- ・プラスチックのコップ

## 4. 探究活動の実践

<活動内容>

散歩中に見つけた自然物に興味を持ち、摘んだり捕まえたりし、友達と思いや考えや知っていることなどを伝え合う。

## <活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

普段は立ち止まらない道路沿いの草花をじっくりと見たり、側に行き直接触ったり、思いがけずバッタがたくさんいて捕まえたりと、探検しながら発見を楽しむような時間を過ごした。「いいもの」を見つけると友達を呼んで知らせようしたり、「これ、きょうりゅうのうんちじゃない?」「たんぼほみただいけど、ちょっとながさがちがうんだよな」「カラスのはね! バイキンがいるからさわっちゃダメー」など、考えたり知っていることを言葉にする姿がたくさん見られた。その後、図鑑などで虫や花の名前を調べ、友達と思いを伝え合う様子が見られた。

グループ①の様子

子A: 葉っぱのつゆが付いてる  
B: つゆって?  
C: 飲んでいいの?

子A: なんかいいる(子ども集まる)  
B: ゴキブリだ!  
C: つかまえられるの?  
B: Bちゃんの手で(掌に載せて)見せてあげる

子A: なんかに飛んでる!  
B: バッタ、バッタだ!  
C: バッタバッタのバッタバタだ!  
D: (つかまえて)つかまえるの得意になるよ

子A: (原っぱを歩き回っていると)なんか靴下濡れてきた  
(前日の雨で葉が濡れている)

子A: これ毒の花、この赤い花触ったらダメ  
B: 触ったらかゆくなるよ  
C: 紫の花があるよ  
D: バッタが食べる花だよ

子A: いつもと違うたんぼぼ(を見つける)  
B: タンポポじゃないよ、枯れてるタンポポだよ

子A: 葉っぱのおいさ  
B: (鼻をつまんで)こうやればいいんだよ  
(みんなでもせかえる)

子A: きのことあった、毒だ  
B: どれ毒?  
C: これね、人間が塗るとしんじょうやつ  
D: 触っちゃダメだよ  
E: たぶん毒ついてると思うから  
C: 別にさ、しんでもいいなら触ってもいいけど



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

少人数の保育は、しっかりと子どもの気持ちを受けとめて心を通わすことができ、充実した時間が過ごせることを実感でき、保育士自身が楽しいと感じられる活動でもあった。今年度は、自然に目を向け、興味を持てるようにと環境を整えている。保育士が何かを提供しなくても子ども達は知りたい気持ちでいっぱい、見つけるのも、感じるのも大人よりも断然に長けていると、今回の活動を通してあらためて気づかされた。子ども達が着目したものに保育士が敏感に感じ取り、その関心を広げたり深めたりできるような環境を整えていきたい。

職員からの意見:

- ・子ども達は知っているもの、知っていることを進んで話していた。自由に発見する時間において、子ども達の発言もより自由になり普段クラスで活動している時とはまた違った一面も見られたのではないかと感じた。
- ・小さなものによく目が行き届いて、子どもの発見する力はすごいと感じた。
- ・ここには何かがあるだろう、また違う場所も探してみたい、という意欲が見られ、探索を楽しんでいることがよく分かった。
- ・自分がしてあげようか?という思いやりの言葉や触っちゃダメだよなどの気遣いの言葉も聞かれたことが嬉しく思う。
- ・自然にある物とそうでないものの区別が分かっているようだったが、人工物も自然の中に存在しているいろいろな物を発見していた。